

手をつなごう2007

平成20年3月3日
岡山県立東備養護学校
支援部だよりNO. 34

備前地域 第3回専門家チーム・ 巡回相談員連携会議開催

2月20日に岡山東養護学校を会場にお借りして開催しました。

備前地域を支援地域とする特別支援学校や巡回相談員から今年度の実績や成果と課題等を報告し、情報交換をしました。



サポート事業について

- 昨年度まで「サポート事業による巡回相談」とそうでないものがあったが、サポート事業に一本化され、分かりやすくなった。
- サポート事業を初めて利用する学校が手続きについて理解されていない場合が多かった。また特に視覚障害などは今年度から事業の対象となったため事業自体を知らない園・学校もある。
- サポート事業について次第に周知されてきた印象をもった。各校に巡回相談に出向いても、担任のみでなく、管理職や養護教諭、コーディネーターなど、いろいろな立場の方がケース会に参加して下さる学校が増えてきた。

成果

- 巡回相談をしたことで改善がみられたケースや、特別支援教育への意識が変わった学校・園があるなど、成果が上がってきている。
- 小学校の巡回相談員の実績は昨年度に比べるとあがってきている。今後はさらに特別支援学校の巡回相談員とペアを組んで支援に出かける、役立つ情報の伝達をするなどのサポート体制を考えていく必要がある。

悩み・不安

- 地域の保護者からの相談を、必要に応じて当該学校での「保護者を交えたケース会」につなげているが、当該の学校と保護者との相互理解に溝があり、調整が難しい場合もある。
- 校内体制が十分できておらず支援が進みにくいケースもある。
- 支援先に満足していただけたかどうか不安。
- 小学校から中学校に進学した子どものアフターケアが難しい。担当者会を開くことができれば連携が深まるのではないだろうか。
- 校外支援と校内支援のバランスの取り方が難しい。

今後の課題

- 巡回相談の事例について、必要に応じて巡回相談員がスーパーバイズを得ることができるようなシステムが欲しい。
- WISC - などの検査依頼が増加傾向にある。一件について、検査・レポート作成・学校や保護者への説明...とかなりの時間を要する。各校のコーディネーターが検査できるように研修や検査用具貸出などの支援を考えていく必要がある。
- 他機関との連携について、ケースを重ねながらノウハウを蓄積していく必要がある。
- 高等学校への支援について「特別支援教育への理解が十分でない」「進路指導との関わりが大きい」「義務教育ではない」など、高等学校ならではの課題が見えてきた。まだ相談件数が少なく、ノウハウの蓄積が十分ではないが、他の地域と情報交換するなどして情報収集に努める必要がある。
- 地域の実情やニーズに応じた相談体制を考えていく必要がある。

その他

- 専門家チーム員の支援をもっと積極的にお願ひしていきたい。
- 視覚障害児童生徒は「ものいわぬ弱視児」と言われ、困り感に気づいてもらいにくい。視覚障害のある児童生徒に適切な支援を行うためには、まず理解をしていただくことが重要であると考えている。